

山の恵みを次世代へ伝える 山づくりの達人

造林手 阿部 重助 氏 じゅうすけ

植林から下刈り、枝打ち、間伐、伐採まで一貫した山林経営を行い、手をかけてやると、山は恵みを生み続けてくれます。山の手入れをしてお返しに山の恵みをいただく。山との共生の暮らしを実践している阿部氏は、林業体験のために森を一般開放して、地域活性化にも貢献しています。

中学校卒業後、製材所で働きながら父親から引き継いだ山の管理を始めたという阿部氏。植林、下刈、枝打ち、間伐…といった山づくりを全て自分でやり、技術を培ってきました。加えて、製材所勤務や森林組合作業班での経験も山づくりに生かされています。

造林技術だけではなく、林内ではシイタケ、ナメコ、マイタケなどのキノコ類やあけびなどを栽培しているほか、豊富にとれるミョウガ、ミズ、ゼンマイ、キノコといった山菜の販売も行っており、山の恵みを存分に活用した暮らしは、山との共生の理想の姿を示しています。

また、所有林のうち約5haを「山遊庭の森」と名付け、一般開放をしています。キノコの植菌や収穫、枝打ち等の体験をするために地域の方々、保育園、小学生など年間500人～1,000人程が訪れます。地元の高校生の林業体験では間伐や枝打ちの指導も行っています。

山と共に生きる山の達人



「木育スクール」で西目高校生を指導



植樹する子どもたち



植菌体験をする子どもたち



トンビマイタケ

山遊庭の森



《阿部 重助氏・プロフィール》

昭和12年生まれ。中学校卒業後、昭和50年代始めまで地元の製材所で働きながら父親にかわり所有林の管理をはじめ。森林組合作業班等にも従事し、山づくりの技術を習得。
平成12年／所有林の一部を「山遊庭の森」として子供たちに開放をはじめ。
平成18年／本荘由利森林組合 育林コンクール枝打ちの部 第1位
平成21年／秋田県林業経営コンクール 経営の部 優秀賞
平成22年／由利地域振興局 元気な由利の郷づくり表彰(東由利林業懇話会として)

●連絡先●

〒015-0201 由利本荘市東由利法内字谷地46-4
TEL.0184-69-3986
※活動の場／秋田県由利本荘市東由利法内 所有林ほか

伝統を守りつつ さらなる高みを目指して錬磨

漆芸工房 齋藤

代表取締役 齋藤 國男 氏

漆芸はお椀や鉢など器をはじめ、飾箱など多種に渡り、暮らしに潤いをもたらします。漆芸製作の世界に入り55年を越し、月日を忘れて漆と語り合ってきたという齋藤氏は、「研ぎ出し技法」の卓越した技法をもち、平成20年に「現代の名工」となりました。

「研ぎ出し技法」は、色漆を幾重にも重ね塗りした器面を研ぎ出し、多様な紋様を創出する技法で、豊富な経験により漆素材の特性を熟知した、氏固有の卓越した技です。

伝統漆器を基調としつつ、現代にマッチした新しい製品開発に取り組もうと、平成11年に「漆芸工房 齋藤」を創業。伝統を守りつつも、さらなる高みを目指す進取の気性に富む齋藤氏は、常に意欲的に作品を生み出しています。

「現代の名工」「黄綬褒章受賞」などに輝き、全国においても各種展覧会で入賞・入選など高い評価を受けています。

また、現在は秋田県工芸家協会の事務局長として実力のある職人の掘り起こしや若手の育成など秋田県工芸界の振興に取り組み、秋田公立美術工芸大学のインターンシップ事業では開学以来、実技指導など人材育成に尽力しています。



漆の技と心を磨き続ける



《齋藤 國男氏・プロフィール》

昭和16年生まれ。
昭和33年／秋田県立本荘公共職業補導所（漆器科）終了
平成 9年／第22回秋田県芸術選奨受賞
平成11年／漆芸工房 齋藤設立
平成20年／卓越技能者表彰「現代の名工」
平成21～24年／秋田県工芸家協会会長
平成22年／黄綬褒章受章
資格／職業訓練指導員（塗装科・漆器科）、1級漆器製造技能士

漆芸工房 齋藤 ●会社概要●

- 取扱商品／漆器製造・お椀・器・文庫・鉢・皿・茶道具・その他修理
 - 得意分野／絞漆を使用し彩漆を塗り重ね独自の研ぎ出し模様を作り上げます。
- 〒010-0065 秋田市茨島7-1-7
TEL.018-863-5737 FAX.018-863-5737

経験に裏打ちされた 銘木を挽き出す突出した技術

あきさん
秋三銘木 有限会社 代表取締役 みくま 三熊 新一 氏

和風建築の天井板・腰板・戸板などに使われ、趣と潤いの室内空間を生み出す銘木。この原木は大径木の天然杉。その調達のために全国の銘杉産地に赴いている三熊氏は、銘木製材(墨掛け・木取り)の傑出した技術をもつ名人です。

三熊氏は、高校卒業後、地元の能代市内の製材所に勤務、そこで人生の師となる社長と出会い、銘木の世界に引き込まれていきました。平成3年に独立し、秋三銘木有限会社を設立、銘木製材業を始めました。

銘木製材は、大径丸太にどのように鋸を入れるかを決める「墨掛け」が最も重要であり、丸太裏面の凹凸や節の位置、さらには木口から読み取れる年輪の揺れなどの情報から、製材した時に現れる木目模様を想像する確かな眼力が必要となります。

氏はこの分野において傑出した技術を有しており、これは長年の経験に裏打ちされた確かな目利きがあってこそのもので、他の追随を許しません。

また、地元能代工業高校の生徒のインターンシップを積極的に受け入れたり、メディアの前で実演を行うなど、銘木や墨掛け、木取りの技の普及・伝承に努めています。

木に対する氏の姿勢は、木と語り、木に思いを込め、何百年も育ってきた木を自分の力で良い製品として世に出してあげることが自分の使命だということです。

木を生かす技と心



熊野神社社木と子どもたち



あまりに大きすぎて製材機械に入らない為、大径木の製材には特別な胴割機械を使います



1mm厚貼(市房杉)



格天90cm角

《三熊 新一氏・プロフィール》

昭和22年、能代市生まれ。能代農高を卒業後、昭和木材に入社。平成3年、独立して秋三銘木(有)を設立。杉天然大径木製材分野を主力に、全国規模の展示会等で農林水産大臣賞、林野庁長官賞の常連となるなど、数多くの賞を受賞。

秋三銘木 有限会社 ●会社概要●

●取扱商品／大径木の製品が多く、床天・門扉・表壁・植壁・天井板等
●得意分野／他社にない幅広の天井板、門扉、床天等
〒016-0171 能代市河戸川字中西山5 TEL.0185-55-3123 FAX.0185-52-4325
<http://www.akisanmeimoku.com> E-mail post@akisanmeimoku.com

原木栽培と後継者育成への熱い思い

原木しいたけ栽培 田中 隆一 氏

原木栽培は肉体労働である上、植菌から収穫まで2年の歳月を要します。高齢化等により原木生産者が減少している中、田中氏は「味、香り、どれをとっても菌床に勝る」と、原木にこだわり続け、後継者の育成や消費拡大にも尽力しています。

農家に生まれ、20代後半からしいたけ栽培に本腰を入れました。県の研修に参加したり、地域の優れた生産者を訪ね歩き研鑽を重ね、技術を高めていきました。努力が実を結び、品評会の賞に入るしいたけが作れるようになり、それを励みにさらに研鑽を続け、多くの栄冠に輝いています。

氏が扱う原木数は年間2,000本～4,000本で、大きくて傘が肉厚になるジャンボしいたけの生産者としても知られています。しいたけ生産のうち、8割を乾燥しいたけで占めています。

また、小中学校等で開催される植菌体験の行事では講師を務め、しいたけの栽培方法や効能など普及に努めています。イベント等にも積極的に参加し、消費者と直接ふれあうことで、自己の栽培技術等の研鑽と消費拡大にも努めています。

体力の続く限り原木しいたけ栽培を続け、後継者の育成にも一層取り組みたいという氏には、しいたけに対する熱い思いがあふれています。

原木しいたけへの情熱



植菌体験をする子どもたち

《田中 隆一氏・プロフィール》

昭和21年生まれ。水稲との複合経営を目指して原木しいたけ栽培を始めて38年。秋田県きのこ祭で林野庁長官賞3年連続6回、山本地方きのこ品評会で秋田県知事賞5年連続8回受賞。各種品評会や秋田県種苗交換会等においても最優秀賞を含め繰り返し受賞するなど多くの栄冠に輝く。

●連絡先●

〒018-2305 山本郡三種町外岡字羽立51 TEL.0185-83-3214
※活動の場／秋田県山本郡三種町 自己所有林内